

令和 7 年度
商議員会 議 案 書

令和 8 年 2 月 24 日（火）13：30～14：50

金沢勤労者プラザ&オンライン



HOKURIKU Branch of The Japanese Geotechnical Society
公益社団法人 地盤工学会 北陸支部

目 次

1. 令和7年度の事業報告	3
まえぶん	
1) 総会・商議員会・幹事会の開催	
2) 研究発表会・シンポジウム・講習会、現場見学会等の開催	
2. 常設委員会活動報告	10
1) 表彰委員会	
2) ユースネットワーク委員会	
3) 令和6年度液状化マップ検討委員会	
4) 新潟地区WG3「若手技術者ネットワーク活動」委員会	
5) 地盤工学技術向上員会	
3. 規定の一部改訂	16
1) 旅費・謝金支給内規	
2) 表彰規程	
4. 令和7年度決算中間報告	17
5. 令和8年度の事業計画	18
まえぶん	
1) 総会・商議員・幹事会の開催	
2) 研究発表会・シンポジウム・講習会、現場見学会等の開催	
3) 令和8年度役員案	
6. 令和8年度の予算	20
7. その他	23

1. 令和7年度の事業報告

まえぶん

公益出版事業〔公1〕

令和6年能登半島地震被害調査をもとに「液状化しやすさマップ新潟県版、富山県版、石川県版」の検証を行い国土交通省北陸地整のハザードマップ作製に助言をした。流水客土技術関連資料集DVDの拡販を行った。

調査・研究事業〔公2〕

新規に地盤工学の担い手を育成する目的で民間の技術者を対象に地盤工学技術力向上委員会を立上げ開催した。若手、学生会員による支部研究発表会、講演会、コロキウム、現場見学会など実施した。

技術推進事業〔公3〕

新潟市と学会本部で契約した「令和6年能登半島地震による新潟市液状化被害検討業務」について協力した。災害協定に基づき自治体職員に対する研修会を開催した。だれでも参加できる土質力学講座をシリーズ形式で実施した。セミナー、現場技術者のための講習会、実務者報告会をなるべく対面で実施し建設コンサルタンツ協会など関連学会協との連携を強化し、支部活動の活性化と新規会員の獲得を目指した。

表彰関連事業〔公4〕

表彰関連事業は支部賞として、論文部門研究功績賞、論文部門研究奨励賞、技術部門技術賞、企画部門企画賞、功績部門功績賞の募集を行い優れた活動・業績を表彰する。表彰委員会内規を改訂した。

1) 総会、商議員会、幹事会の開催

(1) 第65回定例総会

日 時：令和7年4月18日(金)13:30～14:30

形 式：富山Nixホールでの対面とZoomによるオンライン形式

対面参加 26名、オンライン参加 80名、計104名

(2) 商議員会

日 時：令和8年2月24日(火)13:30～14:50(本日)

形 式：金沢勤労者プラザでの対面と Zoom によるオンライン形式

商議員参加者： 名 委任状 名 計 名

(3) 臨時商議員会

日 時：令和7年10月23日(火)18:00～

形 式：Zoom によるオンライン形式

商議員参加者： 22名 委任状 8名 計 32名

(4) 新潟地区幹事会 (WG3 若手ネットワーク活動について)

日 時：令和6年5月21日(火)15:00～18:30

形 式：新潟大学駅南ときめいにて対面とオンライン

参加者： 7名 若手技術者 16名

(4) 石川地区幹事会

日 時：令和6年6月3日(月)18:00～

場 所：金沢勤労者プラザ

参加者： 14名

(5) 富山地区幹事会

日 時：令和7年5月20日(火曜日)15:00～

場 所：富山県立大学(富山県射水市黒河 5180) 中央棟

参加者：12名

2) 研究発表会・シンポジウム・講習会・現場見学会等の開催

(1) 総会時の特別講演会

日 時：令和7年4月18日(金)15:00～17:30

形 式：Nix ホールでの対面&ZOOMによるオンライン

題目：「富山湾南部における海底地すべり調査結果の概要」

講師：富山大学学術研究部 都市デザイン学系・准教授

立石 良 先生

題目：「富山湾海底地形の直接観察に基づいた海底地すべり一津波励起現象の再現」

講師：京都大学大学院工学研究科 都市社会工学専攻・准教授

岩井 裕正 先生

参加人数 106 名

(2) 「金沢市栗崎町～河北潟における液状化対策・復旧工事」現場見学会

日 時：令和7年9月5日(金) 13:30～17:00

形 式：バスを使つての現地見学

場 所：金沢市西部緑道地下貯留施設設置工事現場

参加者 31 名

(3) 地盤工学会と富山県との災害協定に基づく研修会

日 時：令和7年9月25日(木) 13:30～16:40

形 式：ZOOMによるオンラインとNIX ホールでの対面形式

題 目：2024年能登半島地震による下水道被害とその教訓

講 師：ライフライン防災総研・金沢大学名誉教授

宮島 昌克 先生

題 目：老朽下水管起因の道路陥没

講 師：東京大学生産技術研究所 教授

桑野 玲子 先生

参加者 62 名

(4) 第20回 地盤調査法講習会

日 時：令和7年10月10日(金) 13:00～15:10

場 所：国土交通省 北陸地方整備局 北陸技術事務所 敷地内

講習内容：

(1) 原位置試験 (ボーリングコア説明, サウンディングの講義と実技)

(2) 室内土質試験 (土質試験の講義と実技)

(3) 3次元測量 (3次元測量の講義と実技)

参加者 27 名

(5) 第 90 回土質工学最新情報コロキウム

日 時：令和 7 年 11 月 14 日 (火) 13:30～16:35

形 式：近江町交流プラザ 集会 対面と Zoom ウェビナーを利用したオンライン

題 目：能登半島地震による宅地盛土・擁壁 の被害と対策

講 師： 国土舘大学 理工学部 まちづくり学系 工学研究科 建設工学専攻

特任教授 橋本 隆雄 先生

題 目：能登半島地震による石川県内の宅地地盤の液状化

講 師： 東京電機大学 名誉教授 安田 進 先生

参加者 62 名

(6) 「利賀ダム工事」現場見学会

日 時：令和 7 年 11 月 17 日 (月) 13:00～17:30

形 式：バスを使つての現地見学

場 所：利賀ダム工事現場

参加者 33 名

(7) 土質力学講座 第 1 回

日 時：令和 7 年 11 月 20 日 (木) 16:00～17:30

形 式：Zoom によるオンライン形式

題 目：【せん断】

講 師：豊田 浩史 先生 (長岡技術科学 大学)

参加者 49 名

(8) 特別講演会

日 時：令和 7 年 12 月 2 日 (火) 15:30～17:00

形 式：技術士センタービルでの対面のみ

題 目：斜面災害に関する最近の動向

講 師：(株) 高速道路総合技術研究所 斜面防災研究担当部長 金田 和男 氏

参加者 47 名

(9) 土質力学講座 第 2 回

日 時：令和 7 年 12 月 日 (木) 16:00～17:30

形 式：Zoom によるオンライン形式

題 目：【室内試験】

講 師：畠山 正則 氏（応用地質株式 会社）

参加者 40 名

（10）現場技術者のための土質力学：第 12 回

日 時：令和 7 年 12 月 10 日（水）13:30～16:40

場 所：石川県地場産業振興センター

題 目：地盤の支持力について

講 師：金沢大学 理工研究域 地球社会基盤学系

准教授 小林 俊一 先生

題 目：斜面内を流れる地下水について

講 師：富山県立大学 工学部 環境・社会基盤工学科

教授 古谷 元 先生

参加者 15 名

（11）「地盤改良工事および調査ボーリング」現場見学会

日 時：令和 7 年 12 月 10 日（水）13:45～15:45

形 式：現地集合

場 所：新潟県新潟市江南区曙町 1 丁目 4（現場事務所）

参加者 17 名

（12）第 91 回土質工学最新情報コロキウム

日 時：令和 7 年 12 月 19 日（金）14:00～17:00

形 式：NiX ホールでの対面と Zoom ウエビナーを利用したオンライン

題 目：キャビテーション・スーパーウェル ポイント工法の活用と液状化および
地滑り対策への適用について

講 師：株式会社アサヒテクノ 代表取締役 高橋 茂吉 氏

題 目：液状化のメカニズムとその対策における地下水位低下工法の有用性について

講 師：山口大学名誉教授（株式会社アサヒテクノ 技術 アドバイザー） 兵動 正幸 先生

参加者 66 名

（13）土質力学講座 第 3 回

日 時：令和 7 年 12 月 22 日（月）16:00～17:30

形 式：Zoom によるオンライン形式

題 目：【斜面】

講 師：古谷 元 先生（富山県立大学）

参加者 46 名

(14) 第 5 回 JGS 北陸支部ユースネットワーク研究発表会

日 時：令和 7 年 12 月 24 日（水）13:00～16:30

形 式：Zoom によるオンライン（ハイブリッド形式：金沢大学，新潟大学駅南ときめいと）
プログラム

研究発表（13 時 05 分～17 時）

学生による研究話題提供 発表時間 9 分以内、質疑 4 分

参加者 53 名

(15) 土質力学講座 第 4 回

日 時：令和 8 年 1 月 8 日（木）16:00～17:30

形 式：Zoom によるオンライン形式

題 目：【液状化】

講 師：保坂 吉則 先生（新潟大学）

参加者 47 名

(16) 第 25 回地盤工学に関わる実務者報告会

日 時：令和 8 年 1 月 30 日（金）13:20～17:15

形 式：技術士センタービルⅡ対面形式のみ

基調講演：「2024 年能登半島地震を経験して」

講 師：金沢大学 理工研究域地球社会基盤学系 准教授 小林 俊一 先生

題 目：「令和 6 年能登半島地震による石 川県内灘町・かほく市の

液状化被 害と地盤・地下水特性」

講 師：株式会社キタック 水工・砂防部 渡邊 哲朗 氏

題 目：「GNSS を用いた PVD 工法の取 り 組みについて」

講 師：錦城護謨株式会社 三成 昌也 氏

題 目：「戸建て沈下修正の現場から学 ぶ・工法・判断・トラブル対応」

講 師：オムニ技研株式会社 経営企画室 村山 達也 氏

題 目：「実務経験を通じて～地盤に係る業務～」

講 師：基礎地盤コンサルタンツ株式会社 関東支社 前 宗孝 氏

参加者 59 名

(17) 地盤工学に関わる実務者報告会：石川地区

日 時：令和 8 年 2 月 6 日（金）13:30～17:30

形 式：近江町交流プラザでの対面とオンライン形式

題 目：「令和 6 年能登半島地震と 9 月能登半 島豪雨における調査方針と概要」

講 師：応用地質株式会社 金沢営業所在住 主担 宮本 拓人 氏

題 目：「能登半島地震・奥能登豪雨における 斜面災害対策」

講 師：日本工営株式会社 新潟支店 支店長 柚木脇 政浩 氏

題 目：「能登半島沖地震における初期啓開と 道路盛土対策について」

講 師：鹿島建設株式会社 北陸支店 土木部長 神戸 隆幸 氏

題 目：「令和 6 年能登半島地震に伴う内灘 町の地盤変状範囲の抽出と
変状メカ ニズムの考察」

講 師：川崎地質株式会社 企画・技術本部 サブリーガー 窪田 上太郎 氏

参加者 101 名

(18) 土質力学講座 第 5 回

日 時：令和 8 年 2 月 13 日(金) 16:00～17:30

形 式：Zoom によるオンライン形式

題 目：【複合地盤と剛基礎の支持力】

講 師：大塚 悟 先生(長岡技術科学大学)

参加者 40 名

(19) 商議員会時の特別講演会（本日）

日 時：令和 8 年 2 月 24 日(火) 15:00～17:30

形 式：技術士センタービルでの対面と Zoom によるオンライン形式

題 目：「能登半島地震を経験して考えたこと」

講 師：小林 俊一 先生 金沢大学

題 目：「既設住宅等を対象とした液状化対策に関する取組」

講 師：沢田 和秀 先生 岐阜大大学

参加者 名

2. 常設委員会活動報告

1) 表彰委員会

委員会の開催：

令和8年2月3日（火） 16:00～17:45 第1回表彰委員会（オンライン）

出席：大塚、兵動、倉重、黒坂、阪田、森影、（西本：オブザーバー参加）（敬称略）

1. 研究・論文部門について

論文・研究部門では3件の応募（推薦）に対して、論文賞もしくは論文奨励賞としての推薦可否を議論した。その結果、石川工業高等専門学校・新保泰輝氏の「3次元地震応答亀裂進展解析法を用いた盛土の地震時破壊解析」および、富山県立大学・富山市・中央開発（播磨雄大・兵動太一・藤田博樹・王林・陶尚寧）の「EVALUATION OF RETAINING WALL COLLAPSE RISK UTILIZING VIBRATION CHARACTERISTICS」の2件を「論文奨励賞」に推薦することを承認した。なお、後者については候補者が表彰委員会委員のため、委員会終了後に候補者を除いてメール審議を実施した。

以下に、当委員会で推薦対象となった2件について情報を記す。

① 候補者：石川工業高等専門学校 新保泰輝 氏

対象論文：3次元地震応答亀裂進展解析法を用いた盛土の地震時破壊解析，日本地震工学会論文集第25巻，第5号(特集号)，2025年

② 候補者：富山県立大学・富山市・中央開発（播磨雄大・兵動太一・藤田博樹・王林・陶尚寧）

対象論文：EVALUATION OF RETAINING WALL COLLAPSE RISK UTILIZING VIBRATION CHARACTERISTICS, International Journal of GEOMATE, Vol.29, Issue 136, 104-112, 2025

なお、審査にあたり内規の見直しがなされた。（論文賞の基準を「Soils and Foundations、地盤工学ジャーナル等を対象とする」→「Soils and Foundations、地盤工学ジャーナルおよび同等以上の学術誌を対象とする」に変更した）

2. 功績部門について

功績部門では、各地区の65歳以上の副支部長以上経験者を推薦することとし、候補者が3名挙げられた。内2名は本委員会のメンバーであることを理由にご本人から辞退の申し出があった。会議では齋藤浩之氏の推薦を承認した。

3. 災害調査に関する表彰について

かねてより、「新しい技術」や「新しい学術成果」に対する表彰、「学会活動・支部活動」に対する表彰はあるが、「災害調査」に対する表彰は特にないため、表彰制度があっても良いのではとい

う意見もあり、本委員会で議論した。その結果、表彰規定の功績部門に新たに「災害調査にて顕著な貢献をしたと認められる業績等」という項目を入れることとした。規定の改変は商議員会にて審議することとした。

以上

2) ユースネットワーク委員会

- ・北陸支部ユースネットワーク 第5回研究発表会
- ・開催日時：2025年12月24日（水）13:00～16:30
- ・会場：ハイブリット（金沢大学，新潟大学（駅南ときめいと），（Zoom Meeting 併用））
- ・参加人数：53名（金沢大学23名，新潟大学25名，オンライン参加5名）

北陸支部ユースネットワーク委員会では、地盤工学に関心を有する学生間の地域ネットワーク構築および研究活動の活性化を目的として開催された。地盤工学に関心のある学生間の地域ネットワークを構築し、各自の研究活動のモチベーションを高めてもらうこと、また支部活動の活性化を促すことを目的として開催しました。

今年度の研究発表会は、昨年に続きハイブリッド形式（金沢会場・新潟会場）で実施しました。2拠点を活用したハイブリッド開催は盛況で、多くの参加者から高い評価を得ました。また、オンラインと現地参加の双方を組み合わせたことで、より多くの参加者間での交流が可能となり、活発な意見交換やネットワークの機会が増えた点も大きな利点として挙げられます。

研究発表会に先立ち、小林委員長からは「本研究発表会は、北陸支部のさらなる発展を目指し、若手研究者・技術者のネットワーク構築や相互交流の促進を主な目的として企画されました。ハイブリッド形式での開催となりますが、対面・オンライン双方の利点を活かすことで、次世代へとつながる研究交流の基盤形成に資するものと考えております。本発表会が、北陸支部の継続的な活性化と将来的な発展を支える一助となることを期待しております。」との挨拶がありました。

研究発表会はハイブリッド形式（Zoom Meeting）にて開催しました。計12件（前半6件，後半6件）の研究発表がありました。発表者12件すべてを発表賞として表彰しました。

3) 令和7年度液状化マップ検討委員

委員会の主旨

北陸地整が2011年～2012年にかけて公表した、新潟版および富山・石川版の「液状化しやすさマップ」を共同で作成した。液状化のハザードマップは各市町村が作成することになっているが、地方自治体では総務省のマニュアル通りに作成することも難しく、2004年新潟中越地震の知見を活かし独自のマップ作成を行ったものである。

国交省は、2011年東北地方太平洋沖地震後の2013年に都市局がハザードマップ作成のマニュアルを整備し、令和6年能登半島地震を契機として全国的にマップの作成を推進することとし、本年度から各支部の協力を得ながら新たなハザードマップを作成している（沖縄と北陸が先行）。

北陸地整からは、検証作業における助言を求められているに過ぎないが、支部独自の検証を行うことも目的として昨年度から本委員会を立ち上げたものである。

委員会の開催

国交省の動向を見極めるため、全体の委員会は開催していない。

北陸地整のヒアリング

2025. 10. 31 「北陸地整 液状化第 1 回有識者会議」

2026. 01. 07 「液状化リスクマップ有識者会議 第 1 回ワーキンググループ」

2026. 0209 「液状化リスクマップ有識者会議 第 2 回ワーキンググループ」

2026. 0303 「北陸地整 液状化第 2 回有識者会議」 予定

ワーキング参加名簿 (50 音順)

ヒアリング内容

国土交通省の都市局の「リスク・コミュニケーションを取るための液状化ハザードマップ作成手法」に基づいて作成するため、地形分類から機械的に求めた「液状化発生傾向図」とボーリングデータ

金沢大学	小林俊一
(株) ニュージェック	杉本利英
金沢工業大学	高原利幸
長岡技術科学大学	豊田浩史
新潟大学	保坂吉則
(株) 村尾地研	村尾英彦

から求めた液状化被害度 (A, B1, B2, B3, C) のポイントデータを重ね合わせた「液状化リスクマップ」を作成して、各自治体に利用を促すものとなる。2011～2012 年版「液状化しやすさマップ」とはコンセプトが異なり、扱いの大半を自治体に任せる方式のため、自治体への説明が難しく、学会には説明時の助言が求められている。

(4) 新潟地区 WG3 「若手技術者ネットワーク活動」委員会

○委員会報告(1)

- ・ 委員会の名称:地盤工学会北陸支部新潟地区 WG3 「若手技術者ネットワーク活動」
- ・ 活動内容

2024 年度に引き続き、年 2 回、若手技術者・学生さんが、日頃携わっていることを発表していただき、相互に理解を深め、技術者ネットワークを作ることを目論み、企画・実施しました。

WG3 の新規メンバーや、学生さんの進級・進学、および今年度新たに活動に応募してくださった方により、年 2 回の行事に 20～30 人近い方が参加してくださいました。

それぞれの会合で、5～7 件の技術発表・質疑応答をしていただきました。

- ・ 技術発表者

(1)第 1 回=5 件

1-1)藤井様(開発技建)、1-2)待井様(波多野調査設計)

2-1)齊藤様(長岡技大・院)、2-2)西尾様(長岡技大・院)、2-3)飯塚様(長岡技大・院)

(2)第2回=7件

1-1)永原様(北陸地整)、1-2)猪狩様(八千代エンジニアリング)

2-1) 安達様(長岡技大・院)、2-2) 武藤様(長岡技大・院)

2-3) 澤様(新潟大・院)、2-4) 飯田様(新潟大・院)

2-5) 江本先生(鳥取大)



開催状況(第1回)



開催状況(第2回)

○活動履歴

第1回 日時:令和7(2025)年10月7日(火) 午後 15:00~17:30

会場:新潟市 興和ビル(WEB 併用)

第2回 日時:令和7(2025)年12月23日(火) 午後 15:00~17:30

会場:新潟市 新潟大学 駅南キャンパスときめいとA講義室(WEB 併用)

○参加者

(第1回)22人

属性	氏名	所属	部署	CF	第1回本	第1回懇
官	浅生 凜人	北陸地整 港湾空港部	海洋環境・技術課	不要	参加	
官	永原 優衣	北陸地整 新潟港湾空港技術調査事務所	設計室	不要	参加	
地質	沼澤 輝久	(株)日さく	上越支店	必要	参加	参加
地質	池田 裕香	村尾技建(株)		必要	WEB参加	
建設	平良 早弥香	(株)不動テトラ	九州支店		参加	参加
建設	高垣 修太	(株)不動テトラ			参加	参加
建設	廣川 隆史	前田工織(株) 新潟支店			参加	参加
設計	藤井 健太郎	開発技建株式会社		必要	発表	
学(教)	高田晋	長岡技術科学大学	技術支援センター		参加	参加
学生	齊藤竜也	長岡技術科学大学 大学院	環境社会基盤工学専攻		発表	参加
学生	西尾陽丸	長岡技術科学大学 大学院	環境社会基盤工学専攻		発表	参加
学生	飯塚啓人	長岡技術科学大学 大学院	環境社会基盤工学専攻		発表	参加
学生	中島 颯人	新潟大学大学院	環境科学専攻		参加	
学生	齋藤 空	新潟大学大学院	環境科学専攻		参加	
学生	飯田 輝良	新潟大学大学院	環境科学専攻		参加	参加
学生	後藤 亮太	新潟大学	工学部工学科社会基盤工学プログラム		参加	
学生	小林 正典	新潟大学	工学部工学科社会基盤工学プログラム		参加	
学生	名雪 祥文	新潟大学	工学部工学科社会基盤工学プログラム		参加	
学生	向井 光輝	新潟大学	工学部工学科社会基盤工学プログラム		参加	
学生	山本 泰生	新潟大学	工学部工学科社会基盤工学プログラム		参加	
WG3	朝岡 正典	国土交通省 北陸地方整備局	港湾空港部海洋環境・技術課		参加	
WG3	西村 太一	(株)プロテックエンジニアリング	企画開発部		参加	参加
WG3	吉川 渉平	(株)キタック	水工・砂防部		参加	
WG3	鶴巻 駿介	(株)興和	調査部		参加	参加
WG3	長谷川和弘	(株)村尾技建	技術部	必要	参加	参加
WG3	待井 奏人	(株)波多野調査設計	調査部		発表	
WG3	石黒 直紀	JR東日本コンサルタンツ(株)	上信越支店 施工技術部	必要	参加	参加
			参加		21	13
			WEB参加		1	
			合計		22	13

お名前	所属	12月23日(火)の第2
平良 早弥香	株式会社不動テトラ 北陸支店研究室	会場で参加
武藤 夏歩	長岡技術科学大学大学院	会場で参加
浅生 凜人	国土交通省 北陸地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課	会場で参加
鶴巻駿介	(株)興和	会場で参加
安達和希	長岡技術科学大学大学院	会場で参加
藤井 健太郎	開発技建株式会社	会場で参加
永原優衣	北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所	会場で参加
猪狩吉弘	八千代エンジニアリング株式会社	会場で参加
飯田輝良	新潟大学	会場で参加
藤野隼輔	新潟大学	会場で参加
小林正典	新潟大学	会場で参加
服部泰斗	新潟大学	会場で参加
澤和樹	新潟大学大学院自然科学研究科環境科学専攻	オンラインで参加
志賀 正崇	長岡技術科学大学 環境社会基盤系	会場で参加
LIUZHHAO	新潟大学	会場で参加
沼澤 輝久	株式会社 日さく	オンラインで参加
待井奏人	(株)波多野調査設計	会場で参加
後藤亮太	新潟大学	会場で参加
中島颯人	新潟大学大学院	会場で参加
向井光輝	新潟大学	会場で参加
山本泰生	新潟大学	会場で参加
池田裕香	(株)村尾技建	オンラインで参加
齋藤空	新潟大学大学院	会場で参加

WG長	朝岡 正典	国土交通省 北陸地方整備局	港湾空港部海洋環境・技術課
	石井 太一	(株)プロテックエンジニアリング	企画開発部
	金澤 伸一	新潟大学	工学部 社会基盤工学プログラム
	志賀 正崇	長岡技術科学大学	技学研究院環境社会基盤系
	吉川 渉平	(株)キタック	水工・砂防部
	鶴巻 俊介	(株)興和	調査部
	鈴木 聡恵	新潟大学	工学部 社会基盤工学プログラム
	待井 奏人	(株)波多野調査設計	調査部
	猪狩 吉弘	八千代エンジニアリング(株)	北陸支店 技術部 技術第二課
	石黒 直紀	JR東日本コンサルタンツ(株)	上信越支店 新潟営業技術センター施工監理・調査点検ユニット
WG主査			

○委員会報告(2)

- ・ 委員会の名称:地盤工学会北陸支部新潟地区 WG3「R7 土質力学講座」
- ・ 活動内容

こちらでも、2024 年度に引き続き、北陸支部管内の地盤工学を専門とされる先生方に、若手・中堅の実務者を対象とした学びの場を提供する一環として、計 5 回の「土質力学講座(初級～応用レベル)」の WEB 講義を行っていただきました。

(5) 地盤工学技術向上委員会

委員会の趣旨

次世代の地盤工学技術を担う中堅技術者の技術力向上を目的として、本委員会は設立されました。委員は、北陸支部を構成する石川県、富山県、新潟県の各地区から、45 歳前後の民間技術者で構成されます。

委員会活動は 4 年間の予定で、年 2 回ほどの集中セミナーを開催し、業務等で得られた技術や特色ある調査・設計・施工事例、地盤工学に関わる知識を発表形式で情報共有、討議を行います。

委員会の活動

令和 7 年 11 月に各委員に委員会委嘱を依頼し、令和 8 年 1 月に第 1 回の委員会を新潟地区で開

催いたしました。当初は委員全員が対面での参加を計画していましたが、生憎の大雪となり、公共交通機関に影響が出たため、やむを得ず石川地区、富山地区の委員はwebでの参加、新潟地区委員は対面参加となりました。また、オブザーバーとして新潟大学の大塚先生、金澤先生にもご参加いただきました。

委員会後は、懇親会を開催し、対面参加者全員で親睦を深めました。

令和8年度は2回の開催を予定し、第2回を石川地区、第3回を富山地区で開催予定です。

委員会活動概要

第1回 日 時：令和8年1月22日 木曜日 14：30～17：30

会 場：新潟大学 駅南キャンパスときめいと 会議室B

参加者：対面参加11名、web参加11名（参加者名簿参照）

内 容：委員会議事（委員長・幹事選出）

委員長：大淵委員

幹 事：藤島委員、土田委員

セミナー・技術意見交換会

技術発表者：藤島委員（石川地区）

大淵委員（新潟地区）

高柳委員（富山地区）

大塚委員（新潟地区）

委員会名称について

委員会名称を委員会内で協議し、多数決の結果「地盤工学技術向上委員会」に決定した。

地盤工学技術向上委員会名簿

No.	地区	役職	参加方法	発表	氏名	所属
1	石川県		web		細川 悟志	株式会社日本海コンサルタント
2	石川県	幹事	web	○	藤島 雅也	株式会社ホクコク地水
3	石川県		web		津幡 亮佑	アルスコンサルタンツ株式会社
4	石川県		web		濱田 康行	株式会社国土開発センター
5	石川県		web		室田 三四郎	真柄建設株式会社
6	石川県		web		石原 健一	中日本高速道路株式会社金沢支社
7	石川県		web		齋藤 諒平	清水建設北陸支店
8	富山県		web		石井 仁美	株式会社アーキジオ
9	富山県	幹事	web		土田 尚	三和ボーリング株式会社
10	富山県		web		松井 隆志	株式会社村尾地研
11	富山県		web		笠田 樹生	NiX JAPAN株式会社
12	富山県		対面	○	高柳 伸之	ダイチ株式会社
13	新潟県		対面		阿部 悟	株式会社加賀田組新潟支店
14	新潟県		対面		鶴巻 駿介	株式会社興和
15	新潟県	委員長	対面	○	大淵 貴	株式会社キタック
16	新潟県		対面		井貝 武史	株式会社福田組
17	新潟県		対面		上田 孝司	株式会社新協地質
18	新潟県		対面		田中 秀岳	応用地質株式会社
19	新潟県		対面		廣川 隆史	前田工織株式会社
20	新潟県		対面	○	大塚 洋之	株式会社興和
	新潟県	オブザーバー	対面		大塚先生	新潟大学
	新潟県	オブザーバー	対面		金澤先生	新潟大学

3. 既定の一部改訂

- 1) 旅費・謝金支給規程 令和7年10月23日に開催された臨時商議員会で下記のように改訂が議決された。朱色が改定挿入部分

(運賃)

第4条 運賃は勤務先所在地から用務先までの鉄道運賃、船賃、航空運賃、レンタカー代金、バス代金および市内交通費を合わせたものとする。マイカーは認めない。鉄道運賃は JR の旅客運賃を適用し、列車等級は特急・指定、運賃等級は普通とする。航空運賃、船賃、レンタカー使用料金は、支部長がその利用を妥当と認めた場合に限り、実費（通常割引料金）を支給する。市内交通費および勤務先所在地から最寄りの JR 駅まで JR 以外の交通機関を利用する場合の運賃は実費とする。

(宿泊料)

第5条 宿泊料は実費精算額（15,000 円を上限）を支給する。日当はこれを支払わない。ただし宿泊料は毎年、商議員会において見直しができるものとする。

- 2) 表彰規程 令和8年2月3日に開催された表彰委員会で提案された。朱色が改定挿入部分

第2章 表彰対象

第2条 表彰は「地盤工学会北陸支部賞（以下、北陸支部賞という）」を授与して行う。北陸支部賞は、原則として次のいずれかに該当する業績を対象として個人（複数可）または団体に授与する。

(1) 技術部門

北陸支部（新潟・富山・石川）で実施した調査、計画、設計及び施工等の個別技術に係る業績等

(2) 研究・論文部門

創造性、特殊性が活かされた学術的に優れた研究論文及び研究報告等

(3) 企画部門

地盤工学に関連する北陸支部内で実施された新規性、公益性のある企画・事業等

(4) 功績部門

①地盤工学会北陸支部の活動に永年従事し、学会の進歩、発展、運営に顕著な貢献をしたと認められる業績等

②地盤工学会関係技術者の育成及び技術力向上に顕著な貢献をしたと認められる業績等

③地盤工学に関連する災害調査において顕著な貢献をしたと認められる業績等

④地盤工学会の広報ならびに社会的地位向上に貢献をしたと認められる業績等

3. 令和7年度決算中間報告

R7年4月1日からR8年3月31日まで	R7年度予算案	R7決算見込み
(1) 経常収益		
① 事業収益	601,000	99,000
公益出版事業収益(公1)	(50,000)	(0)
印刷物配布収益	50,000	0
調査研究・基準事業収益(公2)	(350,000)	(46,000)
講演会等収益	150,000	20,000
見学会等収益	100,000	26,000
研究会等収益	100,000	0
技術推進事業収益(公3)	(200,000)	(54,000)
報告会収益	100,000	13,000
講習会収益	100,000	40,000
② 雑収益	1,000	0
受取利息	1,000	0
③ 他会計からの繰入額	(2,500,000)	(4,412,000)
本部交付金	2,500,000	2,300,000
新潟市液状化被害検討業務のうち支部実施分	-	2,112,000
経常収益計	3,101,000	4,511,000
(2) 経常費用		
① 事業費	1,605,000	2,031,315
調査研究・基準事業費(公2)	(1,250,000)	(1,331,300)
講演会費	200,000	334,320
見学会費	100,000	335,080
研究会費	950,000	
ジオテクフォーラム・セミナー	50,000	60,000
液状化被害調査委員会	-	-
北陸支部防災会議	-	-
ユースネットワーク研究会	50,000	72,900
液状化マップ検討委員会	50,000	46,000
中堅技術者交流セミナー	800,000	483,000
技術推進事業費(公3)	(250,000)	(539,000)
報告会費	100,000	211,000
講習会費	150,000	328,200
表彰委員会関連費(公4)	(105,000)	(161,315)
表彰委員会費	105,000	161,315
② 管理費	3,555,000	2,701,750
旅費交通費	150,000	25,255
通信費	300,000	83,037
賃貸料	350,000	256,338
消耗什器備品費	150,000	36,210
印刷製本代費	200,000	42,000
会場使用料	150,000	100,320
広告宣伝費	500,000	501,000
図書購入費	5,000	
支払手数料	30,000	
雑費	100,000	37,590
事務局委託費	1,620,000	1,620,000
経常費用計	5,160,000	4,732,750

4. 令和 8 年度の事業計画

まえぶん

1. 公益出版事業〔公 1〕

国土交通省北陸地整が改定する「液状化しやすさマップ新潟県版、富山県版、石川県版」の作成に協力する。流水客土技術関連資料集 DVD の拡販を引き続き行う。支部会員の講師によって実施される「土質力学講座 5 回シリーズ」の資料を過去分も含めて印刷製本することを検討する。

2. 調査・研究事業〔公 2〕

引続き、民間の技術者を対象とした中堅技術者交流セミナーやフォーラム、若手・学生による支部研究発表会、現場見学会などを行い地盤工学の担い手を育成する。

3. 技術推進事業〔公 3〕

災害協定に基づき自治体職員に対する研修会を開催する。だれでも参加できる土質力学講座をシリーズ形式で実施する。実務者報告会をなるべく対面で実施し、建設コンサルタンツ協会など関連学会協との連携を強化し、支部活動の活性化と新規会員の獲得を目指す。

4. 表彰関連事業〔公 4〕

支部賞として、論文部門研究功績賞、論文部門研究奨励賞、技術部門技術賞、企画部門企画賞、功績部門功績賞の募集を行い、優れた活動・業績を表彰する。

1) 総会・商議員会・幹事会の開催

第 65 回定例総会は本年の 4 月に対面とオンライン併用のハイブリッド形式で富山市にて開催する。商議員会は来年の 2 月下旬に金沢市で開催する。幹事会は年度の早い時期に各地区別に開催し年度予定を確定する。

2) 研究発表会・シンポジウム・講習会、現場見学会の開催

下表は例年のイベントをまとめたものである。各地区のイベント開催日時の平準化をこころがける。

	イベント名	地区名
1	特別講演会（総会、商議員会時）	全県
2	現場見学会	石川
3	とやまジオテクフォーラム	富山
4	現場技術者のための土質力学	石川
5	地盤工学講演会	新潟
6	ジオテクフォーラム	新潟
7	地盤調査法講習会	新潟
8	現場見学会	富山
9	第 91 回土質工学最新情報コロキウム	石川
10	ジオテクフォーラム	新潟
11	富山県職員研修	富山
12	現場見学会	新潟
13	実務者報告	石川
14	実務者報告	新潟
15	第 9 2 回土質工学最新情報コロキウム	富山
16	ユースネットワーク研究発表会	全県
17	土質力学講座	全県
18	中堅技術者交流セミナー	全県

3) 令和8年度役員案

本年度は支部長、三役の改選時期です。主要な役員は以下の通りです。商議員、幹事、参与、顧問は随時改選されます。(敬称略)

支部長	桜井 幹郎	北陸基礎開発(株)
副支部長	保坂 吉則	新潟大学
副支部長	古谷 元	富山県立大学
副支部長	小林 俊一	金沢大学理工研究域
幹事長	杉山 茂久	三和ボーリング(株)
副幹事長	金澤 伸一	新潟大学
副幹事長	下関 祥江	三和ボーリング(株)
副幹事長	林 篤	中部地質(株)
支部監事	増田 憲司	前田工織(株)
支部監事	湯川 公靖	北電技術コンサルタント(株)

※支部選出 本部理事 倉重 毅 (一社)北陸地域づくり協会

5. 令和 8 年度予算

R8 年 4 月 1 日から R9 年 3 月 31 日まで	R8 年度予算	R7 年度予算
(1) 経常収益		
④ 事業収益	340,000	600,000
公益出版事業収益 (公1)	(50,000)	(50,000)
印刷物配布収益	50,000	50,000
調査研究・基準事業収益 (公2)	(150,000)	(350,000)
講演会等収益	50,000	150,000
見学会等収益	50,000	100,000
研究会等収益	50,000	100,000
技術推進事業収益 (公3)	(140,000)	(200,000)
報告会収益	70,000	100,000
講習会収益	70,000	100,000
⑤ 雑収益	1,000	1,000
受取利息	1,000	1,000
⑥ 他会計からの繰入額	2,500,000	2,500,000
本部交付金	2,500,000	2,500,000
経常収益計	2,841,00	3,101,00
(2) 経常費用		
③ 事業費	2,660,000	1,605,000
調査研究・基準事業費 (公2)	(1,810,000)	(1,250,000)
講演会費	400,000	200,000
見学会費	290,000	100,000
研究会費	1,120,000	950,000
ジオテクフォーラム・セミナー	50,000	50,000
新潟地区 WG3 委員会	120,000	
ユースネットワーク研究会	100,000	50,000
液化化マップ検討委員会	50,000	50,000
中堅技術者交流セミナー	800,000	800,000
技術推進事業費 (公3)	(730,000)	(250,000)
報告会費	260,000	100,000
講習会費	470,000	150,000
表彰委員会関連費 (公4)	(120,000)	(105,000)
表彰委員会費	120,000	105,000
管理費	2,910,000	3,555,000
旅費交通費	250,000	150,000
通信費	300,000	300,000
賃貸料	200,000	350,000
消耗什器備品費	50,000	150,000
印刷製本代費	200,000	200,000
会場使用料	150,000	150,000
広告宣伝費	5,000	500,000
図書購入費	5,000	5,000
支払手数料	30,000	30,000
雑費	100,000	100,000
事務局委託費	1,620,000	1,620,000
経常費用計	5,570,000	5,160,000
当期経常増減額	△2,729,000	△2,059,000

7. その他